

13.12.15 奥多摩御前山山行報告書

M3 荒川 晶

① 参加メンバー(計 14 名)

S53 本間先生・H23 大橋先生・H24 仙田先生・H24 衛藤先生

M3 荒川・加藤・中西・濱崎 M2 田中 M1 堀江・為本・伊賀上・塙 聖路加看護大 4 年進藤

② コースタイム

立川駅 07:05～08:29 奥多摩駅 08:35～08:50 奥多摩湖 09:10～サス沢山 10:30～惣岳山 11:50～12:15 御前山 13:45～15:30 境橋バス停

③ 概要

年の瀬迫るこの時期に、忘年会的な意味合いのある山行を実施しようと思いついたのは 11 月。C1・M0 の頃実施されていた 12 月の山行記録を参考に、奥多摩で日帰りですぐに登れ、かつ山頂でゆっくり暖かいものなどを作る山をと企画した。それと何名かの OB の先生方から「学生と一緒に山に登りたい」との意見も頂いていたので、今回は卒後数年程度の先生方を中心に何名かの先生に連絡を取った結果、本間教授を含む上記 4 名の先生方が参加して下さることとなった。お忙しい中日程を調整してくださった先生方には改めて感謝の意を表明させていただきたいです。なお、奥多摩地域全般に言えることだが標高差が地図上のイメージより大きいので少々ハードな行程となってしまうがちであるので、今後気を付けたいところである。今後も毎年こうした山行が続くきっかけとなればと思う。

④ 本文

集合は立川駅とした。電車の接続が悪く少々時間を持て余し気味になったが、そのおかげで余裕をもって全員が集めることができた。奥多摩直通の列車に乗り、青梅駅で本間教授と合流。カーブの多い線路を抜けて奥多摩駅へ。初冬のこの時期でも丹沢と並んで人気の高いこの山域は人が多く、乗車予定のバスはこの日も満員。それでも積み残しなく発車し、15 分ほどで奥多摩湖バス停へ。

ここで小休止と自己紹介などを簡単に行き、出発。奥多摩湖ダムの堰堤上を歩いて登山道へ。奥多摩地域ならではの、登り始めの傾斜はきつい。メンバー数も多いこともあってゆっくりゆっくりと登るようにペース配分を心がける。眺望はあまりよくないが、葉を落とした木々の間から時折見える奥多摩湖を眺めて、少しずつ高度を上げていることがわかる。時折休憩を入ると、本間先生を始め、OB の先生方が付近の山座同定をして下さる。アルプス・八ヶ岳の山々はだいぶ分かるようになってきたが、この地域の山々はまだ全然分からないので大変参考になりました。

1 時間少々でサス沢山、ここから大ブナ尾根に上がり惣岳山が目に見えてくると御前山ももうすぐかという気持ちになる。落ち葉が積もって滑りそうになりながらも最後の急登を終えて惣岳山。休憩を入れることも考えたが昼食に時間がかかりそうであることを考えてそのまま御前山を目指すことにした。ここから御前山までの道のりは春にはカタクリの花の人気の高いようだが、一時期はその影響もあり登山者の山の踏み荒らしが問題になったようで登山道の周囲にはきちんと柵がしてあった。途中 1 箇所富

土山の展望の良い場所があったのでしばし写真撮影。ここから数分歩けば御前山の山頂に到着。当日の天候を見て、山頂あるいは付近にある御前山避難小屋で昼食にしようかと考えていたが、この日は朝から素晴らしい快晴だったのでここで昼食とすることにした。

今回はメニューに迷ったが豚汁を選択。部員何人かに食材を分担してもらい、おもむろに調理開始。歩いている間は汗ばむぐらいの陽気でも、じっとしているとさすがに寒くなってくるので荒川・中西とで調理時間中は紅茶などを作って過ごす。30分ほどして少しずつ出来上がってきたので順次配布してゆく。味は出来上がるまで不安だったが結構美味しいとの評価をいただいたので一安心。普段はどうしてもコースタイムの都合などでなかなか十分な時間を取ることはできないが、たまにはこうして山頂でのんびりと食事を作るのも悪くはないと感じた次第である。

1時間半ほどの間、食事歓談など終えた後記念写真を撮影して下山開始。下山後すぐに御前山避難小屋付近を通過。水場もあるのだが、状況によっては煮沸必要との記載はあったので、今回の調理用の水はすべて下界から持参した。また北側斜面ということもあってかその付近の流れは早くも氷結していたのは印象的だった。ガラス張りで冬場は「死ぬほど寒い」と評判の小屋を見学して登山道を下る。ここから先も1000m近い下りになるので足元には注意を払いながら歩く。ルートについて調べていたら、この付近一帯は奥多摩都民の森として登山ではない自然観察活動などで利用されているようで、そこかしこに散策路やちょっとした展望台などが設置されていた。また一部区間で倒木や崩落などによる通行止めもあるとのことだったが、実際は登山道の半分以上が通行止めとなっており、代わりに丁寧に整備された林道を歩く形になった。少々残念ではあったものの帰りのバスの時間も微妙だったのでお蔭で少々コースタイムの短縮にもなり結果的には良かったように思う。15:30過ぎに無事に境橋のバス停付近に到着。バス停手前の横断歩道が随分渡りにくかったがバスは定刻通りに到着。奥多摩駅に移動して解散となった。

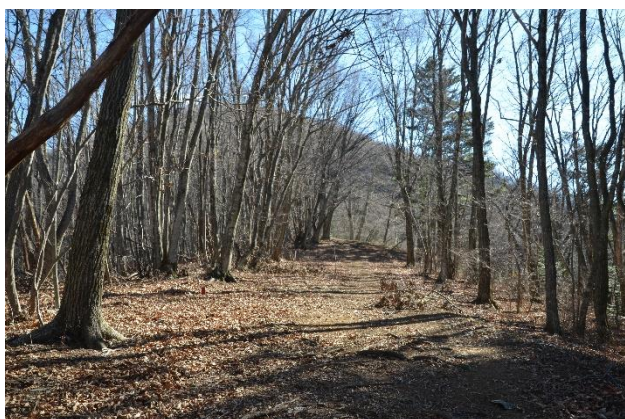


(上) この日は快晴、風もなく絶好の登山日和。

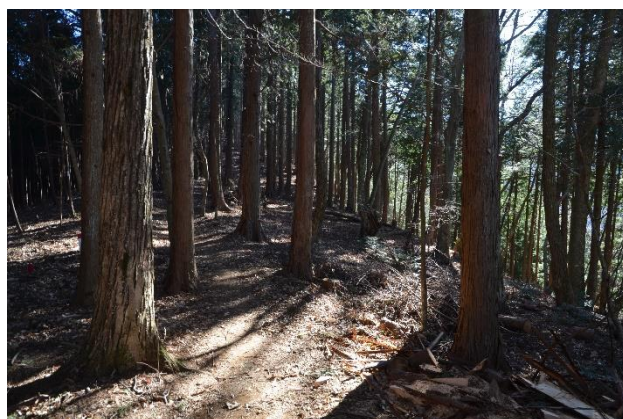
(左上) ダム湖の堰堤を歩く。一般の散策路も設けられている様子。

(左) 葉の落ちた樹林帯の急登を行く。奥多摩山城は登り始めがきつい。





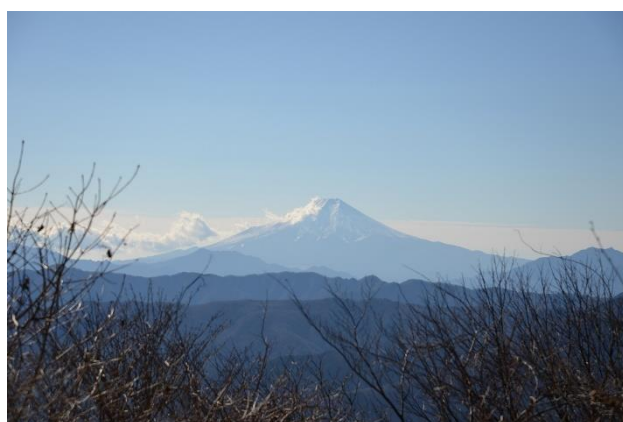
広葉樹林帯は葉も落ちて明るい。奥に見えるのは惣岳山。



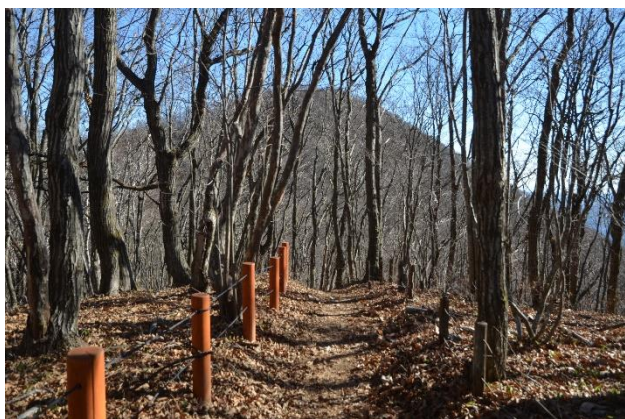
時折針葉樹林帯もあり、こちらは日が差ししていなければ薄暗い雰囲気であった。



惣岳山山頂にて、H23 卒大橋先生を中心に。



惣岳山～御前山間にて、富士山の展望が開けた場所より。



(上) 山頂にて調理風景。

(左上) 惣岳山～御前山の間はカタクリ保護のため、登山道周囲には柵とロープが設置されている。

(左) 豚汁作成中の光景。大きな鍋 2 つがいっぱいになるほどの量でしたがすぐに完食となりました。





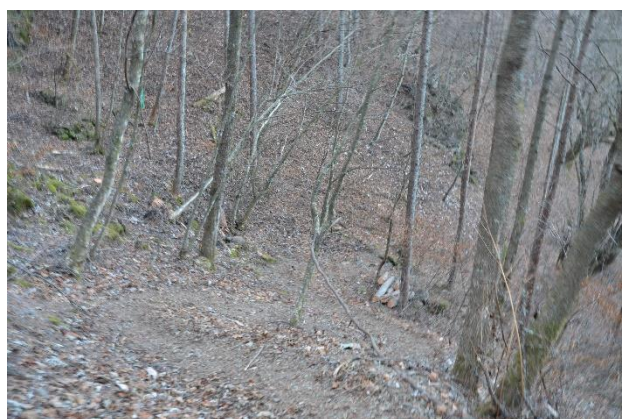
出発前に全員で記念撮影。14人という大人数は私自身初めてでした。



山頂は日も当たり広々としていて過ごしやすい。



広々としているがガラス窓のある御前山避難小屋。冬場の使用は寒いとのこと。



ジグザグ道の急坂を下ってゆく。



(左上) 登山道はそこかしこが通行止め。春まで開通は待たされるのでしょうか。

(上) 結果的に、下山はほとんど林道を歩くことになりました。

(左) 境橋バス停に下山。谷間にかかる橋の上にある小さなバス停。





<御前山山頂での集合写真>

前列左より、M3 加藤・H24 衛藤先生・S53 本間教授・M2 田中・M3 荒川・M3 中西

後列左より、H24 仙田先生・H23 大橋先生・M1 塙・M1 為本・M1 伊賀上・M1 堀江・聖路加進藤